



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 127

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 127. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1963, 127: 115-126

ISSUE DATE:

1963-04-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186912>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No 127

1963. 3月 (4月10日)

録 事

3月6日～8日 近畿財務局管財部砂岡紫穂係長・河和歌山財務部管財課木村郁穂係長・京都大学側より川上則一郎国有財産掛長・宮谷慶四郎理学部事務長・加藤一郎同会計掛長・松村省三事務官来所、水族館新館借用料査定並に番所山植物園及町有地との境界確認折衝を行う。

3月7日 実験所事務室で宮谷慶四郎委員と現地委員が会合、販賣給与のことで話し合いをなす。

3月14日～17日 荒賀研究員は、文献調査並に研究のため舞鶴市京大水産学教室に出張。

3月20日 紀南方面御旅行の義宮殿下は、臨海実験所にて御研究、尚水族館もごらんになれる事と御決定。その御予定では、29日夕刻和歌山市より白浜町御着、むさ志水族館に御着泊。翌30日は

9時 御泊所むさ志御発
9時 5分 実験所御着 御休憩
9時10分より 水族館御視察
9時55分より 番所山植物園御視察
10時45分より 学生実習を御覧、後特別研究室で御研究
12時 御昼食 御休憩
12時55分 実験所御発 白浜口駅へ
13時25分 白浜口駅発の列車で那本に向かわれる

となっている。

3月29日 振興会のあり方及び水族館の運営につき宮崎應政、懇談のため、大蔵省主計局永田豊経理課長及び岡橋兵宏一課長補佐来所、京都大学側宮谷慶四郎理学部事務長、川上則一郎国有財産掛長も同席、説明に努めた。

3月30日 義宮殿下は御予定の通り9時5分実験所御着、9時10分お元気で水族館においでになられた。市川衛臨海実験所長代理が御案内申上げ、旧館では主として時節委員が、新館では荒賀研究員が御説明申上げた。殿下は終始にこやかに、御熱心に御研究なられた。

その後番所山植物園御視察、学生実習を御覧になられた後、特別研究室に御成り内海教授、時節助教授の説明にて御研究された。

御昼食御休憩の後、13時実験所御発、白浜口に向かわれた。

暖かい春日和に恵まれて、殿下の御予定がとゞこおりなく行われた事はなによりであった。

3月31日 本月の入場者数は104,077人と、待望の月間入場者数10万を突破し、昨年の同月入場者85,688人に対して189,056人の増加となった。累計では本年度771,517人となり、前年度累計718,803人に対して52,714人の増加である。本月入場者増の要因は

1. 花見客の好転
2. 北陸方面の豪雪の影響
3. 商館時節の延長

等が考えられるが、当館としてはよろこばしい現象である。

業 務 概 況

◎3月の入場者

区 分	大 人	中 人	小 人	合 計
水族館券売部	10,529	310	1,013	11,852
団体	22,918			22,918
交通公社券売部	6,009			6,009
近畿日本券売部	1,137			1,137
日本旅行会券売部	24			24
日通観光社券売部	335			335
明光バス券売部	60,370		1,432	61,802
合 計	101,322	310	2,445	104,077
異 計	784,684	2,432	20,401	771,517
雑 料	白浜第一小学校児童他		149	1,249

団 体 : 一般 378組・学生 33組・合計 411組・

◎3月の事業収入

(今年度累計)

観光券売上金	2,322,381	20,236,139
窓 口 発 売	914,605	8,878,018
交通公社クーポン	144,042	2,105,278
近畿日本ツーリストクーポン	30,182	231,111
日本旅行会クーポン	720	63,275
日通観光クーポン	8,689	16,759
明光バス観光券	1,224,143	8,941,698 ※
予金・積立金利息	83,291	162,279
手 数 料	107,136	655,674
絵はがき拂下	57,030	597,020
パンフレット拂下	—	59,950
南極生物報告拂下	—	2,980
魚 類 拂 下	1,400	21,300
雑 収 入	2,634	34,210
諸施設改善積立金より繰入	—	4,551,567
災害時資金より繰入	—	168,760
合 計	2,572,872	26,489,879

※ 明光バス観光券未収分 大人券 @30 34868枚 @27 28,613枚
小人券 @10 1,178枚 @9 266枚

水族館経費

費目	金額	累計	備考
人収費	668,033	4,003,152	37年10月～38年2月
会費	8,990	119,189	18歳迄特別
備品費	212,970	996,580	流し台、カスレン子代他
消耗品費	151,983	1,862,802	水槽ガラス代他
維持費	142,289	1,405,105	
その他諸費	145,035	856,380	印章修理他
積立金	781,099	2,339,062	新館建物修用料他
予備金	4,343,714	7,702,702	
合計	6,454,113	19,284,972	

実験所経費

費目	金額	累計	備考
研究費	30,000	152,630	
接収金	16,520	150,000	京田旅費
備品費	7,173	135,536	図書
消耗品費	0	0	
刊行費	762,250	1,114,150	Publ vol 10, No 2 印刷他
役務費	6,000	887,104	
合計	821,943	2,439,420	

博物館経費

費目	金額	累計	備考
人収費	0	34,500	
備品費	0	0	
消耗品費	0	0	
役務費	5,000	5,000	海菜標本整理手当
合計	5,000	39,500	

臨時費

摘要	金額	累計
		4,725,987

支出合計

水族館経費	6,454,113	19,284,972
実験所経費	821,943	2,439,420
博物館経費	5,000	39,500
臨時費		4,725,987

合計 7281,056 26,489,879

○3月末現在高

前月よりの繰越	4,708,184
今月の収入合計	2,572,872
今月の支出合計	7,281,056
<hr/>	
現 在 高	0

○前年度との比較

	1962	1963	増 減
入 場 者 数	85,167	104,077	+ 18,910

水族館記事

- ◎ 1日、4日 新館地下水槽C1（冷水貯水）W1（温水貯水）を清掃。銹状の沈凝物を多量にとりのぞいた。
- ◎ 2日 I水槽のガラス入替工事開始。同槽のエビ類はD水槽へ移す。
- ◎ 6日 瀬戸金谷氏のエビ飼にかかった巨大なカスザメ（全長155cm 約40Kg）が入槽 No 24水槽で客の目をみはらせている。
- ◎ 8日 堺浦よりタカアシガニ雄1個体が入槽。同日、G水槽のタカアシガニ雌1個体はゾエアを孵出させた直後に死亡。
- ◎ 9日 大阪辻本商店よりヒメツバメウオ10個体と熱帯淡水魚補充分若干が入槽
- ◎ 10日 堺浦浜本氏より大ダイ1個体（全長70cm 5Kg）が入槽。26日に鎌賀崎漁師より購入した2個体（45.55cm）をあわせて、H水槽の大ダイは5個体となった。いずれも健康状態良く、夏の白点病さえ防ぎ得れば長期飼育できる見込みである。
- ◎ 19日 屋外プールのアカウミガメ1個体が死亡。同プールの生残り数は3個体。
- ◎ 20日 堺浦より深海性のヨロイザメ1個体（全長140cm 約20Kg）が入槽したが体の平衡を失ったまま回復せず27日に死亡。
- ◎ 20～23日 熱帯淡水魚槽TF2～5を大清掃。従来の敷砂は細かすぎて水草の発育に不適当なので、全3mm前後の粗砂にとりかえ、水草を補植した。
- ◎ 21～24日 堺浦よりタカアシガニ2個体（すべて雄）が入槽、G水槽だけでは収容しきれず、4個体はR1へストックした。
- ◎ 22日 富田、袋湾の壺飼漁師から、新たに魚類を購入することになり、その第一陣が入槽。まだ水温が低いので、珍種はなかったが、この壺飼は6月頃まで操業するので今后に期待できよう。
- ◎ 24～27日 第1水槽室No2～21水槽の大清掃をかねて系統帳に配置がえを行なった。
- ◎ 24日 大阪エンゼル熱帯魚店よりカクレクマノミ8個体、スズメダイの1種6個体テッポウウオ3個体が入槽、新館卓上水槽に展示した。
- ◎ 25日 昨年春より飼育中のタカアシガニ1個体は残念ながら死亡、飼育期間1年2ヶ月
- ◎ 26～27日 塔島および面双島で久しぶりに潜水採集を行なったが、今冬の寒波の影響で、例年このシーズンには普通に見られるネンブツダイ類、チヨウチヨウウオ類

などが全く認められなかつた。また、造礁サンゴ類も多数が死亡しているようである。

◎ 28日 T水槽の内式フィルターには、ネットの保護材として、塩・ビ・ハイスの枠をのせていたが、これがところどころ砂の上に露出して見苦しくなつたので潜水作業により取り除いた。(1年間の試用の結果、このパイス程度の保護材はあまり効果がないことが判つた。)同時に汚砂を攪拌し通水をよくした。

◎ 29日 T4 のスズメダイの1種(24日新着)は入槽前よりウーディニウムが寄生していたらしく、これが同槽のコバルトスズメにも感染し、発見がおくれたため共に全滅した。

カクレマノミ テッポウウオには、今のところ症状は認められないが、念のため硫酸銅(2 ppm)を行なつた。

◎ 3月の採集作業

日 時	採集場所	方 法	人 員	主 な 目 的
14日午後	動物園下の浅	磯採集	2	フジツボ類 ヒライソガニ
25日午前	田 月 島	〃	1	メジナ幼魚 ウミサカ類
〃 午後	塔島東水道	潜水採集	2	ヤギ類 ガンガセ
26日 〃	四双島東側	潜水、磯採集	3	イボヤギ ウミシダ類
27日 〃	島 島	磯 採 集	2	イロギンギ類 ウミシダ類

◎ 主な採集水族名

魚類：ゴイシウミヘビ メジナ セジロハゼ ヘビギンポ イタナウオ ハコフグ
キタマクラ

無脊椎動物：オオトゲトサカ イソバナ ハナヤギ ミドリイロギンギ イボヤギ
ムラサキハナギンギ クロフジツボ カメノテ サラサエビ ノコギリガニ ヒライソガニ
ガーベラミノウミウシ セイロウミウシ アオウミウシ エダウミウシ ウミフクロウ
ヒロウミウシ ヘニキヌツツミ ウミシダ オオウミシダ ヤツデヒトデ アオスジクモヒトデ
ウデナガクモヒトデ ガンガセ ヨリアナガシ オオブングク アカオニナマコ シロボヤ

◎ 主な購入水族名

魚類：トランスルーセント・グラスキャット・フィッシュ アルビノー・スマトラ
バルブス・ヘキサゾーナ ゼブラ・ダニオ (以上淡水)
ナマカザメ ドナザメ ヨロイザメ コモンサカタザメ カスザメ ガンギエイ シビレイ
(122)

マエリ スリウミヘビ ダイナンウミヘビ ダツ リュウキョウエビス の1種 イットウダイ
 マッカサウオ スズキ マハタ アオハタ イヤゴハタ マダイ セトダイ コウダチタカノハ
 ミシマオコゼ オキトラギス カクレマナミ ススメダイの1種 ササノハベラ
 ヒメツバメウオ テッポウウオ ゲンロクダイ シマフグ ウミスズメ アヤマカサゴ
 コクチフサカサゴ ホウボウ ヒラメ イシガレイ アンコウ

無脊椎動物 : セミエビ ヒロバウナワエビ タカアシガニ ケアシガニ ヒシガニ
 ヤマトカラッパ マツバガニ コウイカ ウミシダの1種

◎ 3月31日現在、飼育中の動物は、総計297種3570個体以上で、その内訳は次の通り。このうち観覧水槽に収容展示中の動物は291種3210個体以上。

ヒドロ虫類	2種	フジツボカメノテ類	5種	ウミシダ類	4種
ウミトサカ類	1〃	エビ類	13〃	ヒトデ類	7〃
ヤギ類	6〃	ヤドカリ類	6〃	クモヒトデ類	6〃
ウミエラ類	1	カニ類	22〃	ウニ類	12〃
イソギンチャク類	10〃	アメフラシ類	17〃	ナマコ類	5〃
イシサンゴ類	2〃	ニ枚貝類	7〃	ホヤ類	4〃
ハナギンチャク類	1〃	巻貝類	24〃	軟骨魚類	14〃
ホウキムシ類	1〃	ヒザラガイ類	1〃	硬骨魚類	117〃
多毛類	3〃	イカ類	1〃	カメ類	3〃
カブトガニ類	1〃	タコ類	1〃		

資 料

◎ 3月の気象 (09時観測)

第1水槽室 (水温・比重は N0.24水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：16	6	3	7
室 温 (℃)	9.2 ~ 14.0 11.2	8.7 ~ 13.8 11.5	10.0 ~ 16.0 13.2
水 温 (℃)	12.00 ~ 13.40 12.65	12.00 ~ 13.86 12.95	12.68 ~ 15.22 14.14
比 重 (°15)	25.43 ~ 25.94 25.78	25.43 ~ 25.86 25.67	27.37 ~ 25.83 25.69

新 館 (水 温)

H 水 槽 (℃)	$\frac{12.6 \sim 13.4}{12.9}$	$\frac{11.2 \sim 14.0}{13.0}$	$\frac{12.6 \sim 15.8}{14.1}$
T8 水 槽 (℃)	$\frac{12.6 \sim 13.3}{13.0}$	$\frac{11.5 \sim 14.0}{13.2}$	$\frac{12.8 \sim 16.0}{14.5}$

取 入 口

水 温 (℃)	$\frac{12.80 \sim 13.82}{13.18}$	$\frac{12.08 \sim 15.48}{13.58}$	$\frac{12.88 \sim 15.62}{14.52}$
比 重 (25)	$\frac{25.83 \sim 26.01}{25.87}$	$\frac{25.24 \sim 26.01}{25.72}$	$\frac{25.51 \sim 26.01}{25.67}$

◎ 昭和37年度中に飼育した全動物は、総計684種25742個体以上で、その内訳は次の通り。

無脊椎動物 : 337種11731個体以上

魚 類 : 342種13927個体

爬 虫 類 : 5種 84個体

カイメン類 6種 36個体	多 毛 類 4種 43個体	イ カ 類 8種 66個体
ヒドロ虫類 7 66	カブトガニ類 1 12	タ コ 類 4 104
ウミツサカ類 9 71	ゾウボウカサネ類 7 1620	ウミシダ類 6 58
ヤ ギ 類 9 470	エ ビ 類 26 1870	ヒトデ類 14 188
ウミエラ類 1 11	シ ャ コ 類 4 6	クモヒトデ類 9 106
イソギンチャク類 12 428	ヤドカリ類 9 349	ウ ニ 類 18 488
イシサンゴ類 14 141	カ ニ 類 49 1987	ナマコ類 7 59
ツリサンゴ類 2 8	アメフラシ類 37 494	ホ ヤ 類 6 151
スナギンチャク類 1 1	ニ枚貝類 20 964	軟 滑 魚 類 18 380
ハナギンチャク類 1 20	巻 貝 類 42 1868	硬 骨 魚 類 324 13547
ホウキムシ類 1 18	ヒザラカイ類 3 28	爬 虫 類 5 84

来 訪 録

3月1日 東京都上野動物園西園係長久田迪男技師は視察のため来館

全 日 広島大学水畜産学部小山治行助教授他水産科学生5名は豊潮丸練習船にて来航。同日水族館を見学。

3月23日 長崎県水産振興課中尾光喜課長補佐・同長郷嘉寿主査は、水族館水槽及び魚類運搬船の施設改造等の研究のため来館。

3月26日 鳥羽水族館今村邦夫常務取締役は視察のため来館。

3月31日 北海道大学金森政治教授・佐藤修助教授は視察のため来館

昭和38年4月10日 (NO.127)

寄集者
発行所

宮地 伝三郎

発行所

瀬戸臨海実験所振興会
和可山県白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel. 白浜温泉515)